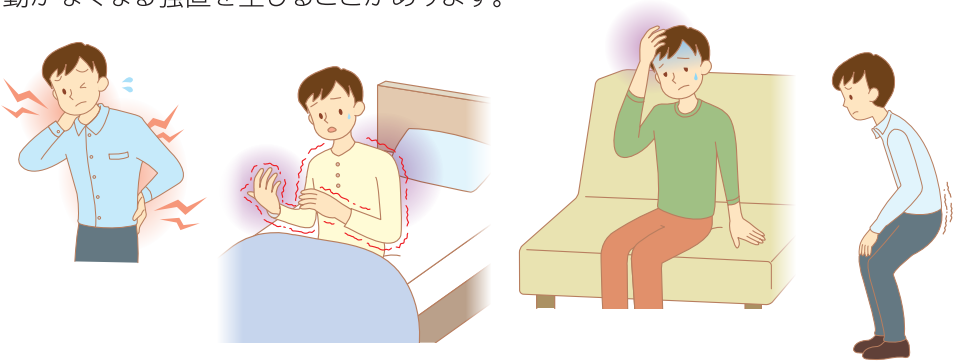
インフリキシマブBS
点滴静注用100㎎「日医工」
による治療を受ける
強直性脊椎炎の方へ

強直性脊椎炎とは

手足の小さい関節から発症することが多い関節リウマチとは異なり、脊椎や骨盤の炎症が主体となる原因不明のリウマチ性疾患です。

脊椎周辺の痛み、全身のこわばりや倦怠感、発熱などが主な症状で、病状が進むにつれて次第に脊椎や関節の動きが悪くなり、20～30%の症例では、脊椎が固まって動かなくなる強直を生じることがあります。

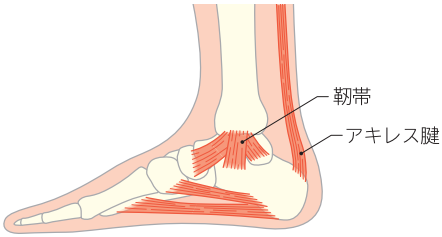


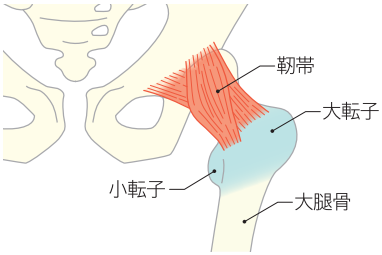
どのような症状がおきますか

腰痛やでん部痛(坐骨神経痛)から始まりますが、痛みは次第に、首、胸、手足の大きい関節に拡がります。進行すると、前屈みの姿勢になります。

腰背部痛は、安静にしても軽くはならず、むしろ動くと改善するのがこの病気の特徴で、早期発見の糸口となります。初期には、痛みが強いとき(数日から数週間)と、全く痛みがなくなるときとの波が激しいことが特徴です。

また、踵、大腿骨の大転子などの靭帯が骨にくっつく部位の痛みが起こります。付着部炎と呼ばれています。





どのような経過をたどるのですか

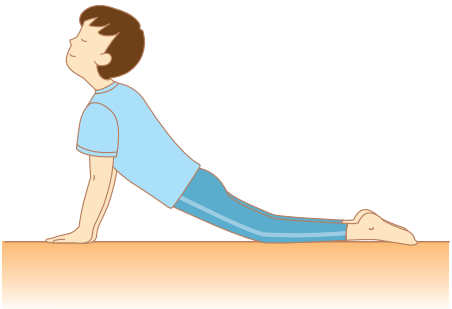
10～20代で発症し、病勢（病気の進み具合）のピークは20～30歳代が一般的です。

激しい痛みと入れ代わるように脊椎や関節の強直が目立つようになります。しかし、すべての患者さんが、強直するわけではありません。

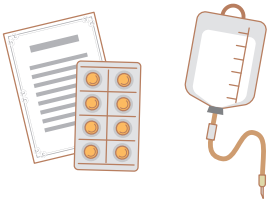
実年期・老年期に入ると激しい痛みは減り、こわばりと倦怠感などが主体になります。

どのような治療法がありますか

運動療法が治療の基本です。毎日時間を決めて体操や運動を積極的に行ってください。ゆっくりとしたストレッチやプールでの歩行も良いです。



非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）は薬物療法の基本で、多くの例で痛みが和らぎます。
関節リウマチに汎用されている生物学的製剤のなかで、TNF阻害剤は強直性脊椎炎にも有効であることが証明されています。

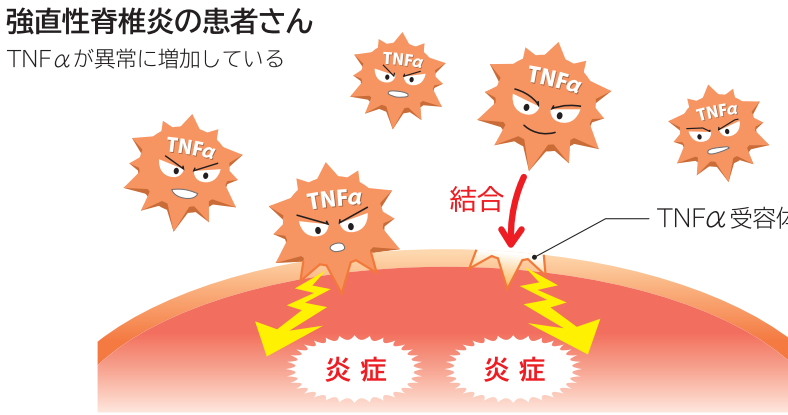


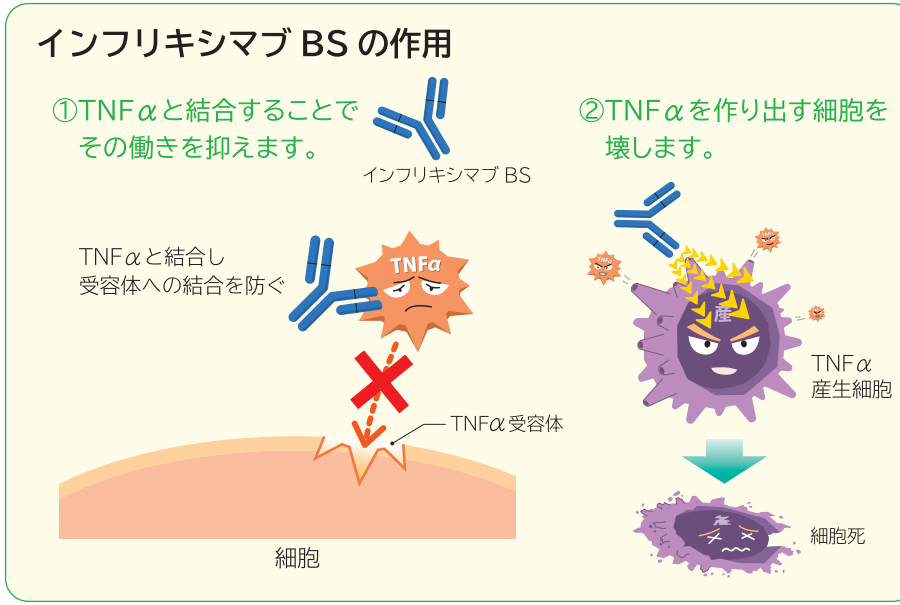
出典元：難病情報センターホームページ（2020年10月現在）からの引用
https://www.nanbyou.or.jp/

インフリキシマブBSの作用

インフリキシマブBSは、バイオテクノロジーを応用して製造されたインフリキシマブ製剤のバイオシミラー（バイオ後続品）です。

強直性脊椎炎に関わっているTNFαの働きを抑えることで、効果を発揮します。





※イラストはイメージです。

インフリキシマブBS治療前の注意事項

1 投与前の確認事項

インフリキシマブBSを、投与できる方とできない方がいらっしゃいます。
次の方は、必ず主治医にお伝えください。

□強直性脊椎炎以外の病気のある方
□現在、服用中のお薬がある方
□以前にお薬などで発疹やかゆみなどのアレルギー症状が出たことのある方
□これまでに生物学的製剤の治療を受けたことがある方
□ワクチン接種の予定がある方
□現在、咳やのどの痛み・はれ、熱などの症状がある方
□現在、妊娠または妊娠している可能性のある方、授乳中の方
□次の病気にかかったことがある方

- 感染症（敗血症、肺炎など）
- うっ血性心不全
- 重篤な血液疾患
- 肝炎（B型肝炎、C型肝炎）
- 間質性肺炎
- 悪性腫瘍
- 脱髄疾患（多発性硬化症など）
- 糖尿病
- 結核にかかったことがある方、または身の回りに結核の方がいる方

また、他の医療機関を受診する場合や、薬局で他のお薬を購入する場合は、必ずこのお薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

2 治療前の検査

インフリキシマブBSは、細菌やウイルスなどから体を守る「免疫力」を弱めるため、本剤による治療を始めると、感染症にかかりやすくなったり、からだの中でおとなしくしていた細菌やウイルスが活動を始める可能性があります。
そのようなことを防ぐために投与を開始する前に以下のような検査を行います。

①問診（敗血症、肺炎などの感染症の有無）
②結核検査（ツベルクリン反応検査／インターフェロン-γ遊離試験）
③画像検査（胸部X線、胸部CT）
④血液検査（白血球数、リンパ球数、β-Dグルカン、肝炎ウイルスなど）

特に注意すべき副作用

インフリキシマブBSを投与中や投与後に、「いつもと何か違う」と感じることがあれば、主治医に相談してください。
特に以下のような症状があらわれたら、次の受診を待たずにただちに主治医に相談してください。

風邪のような症状が続く
（発熱、咳がでる、のどが痛い、
頭が痛い、寒気がする など）

息苦しい、胸の痛み、
冷や汗、動悸、息切れ、
から咳

体がだるい、疲れやすい、
吐き気、嘔吐、
白目や皮膚が黄色くなる

皮膚に発疹、
かゆみがある、
顔や手足のむくみ

めまい、目が見えにくい、
顔や手足の異常な感覚、
考えがまとまらない

あおあざができる、
出血しやすい

筋肉や関節の痛み、
手足のしびれ、
手足のこわばり、
コーラ色の尿

日常生活での注意点

このお薬は「免疫力」を低下させるため、感染症にかかりやすくなる場合があります。
感染症を予防するために以下のことにご注意ください。

- 規則正しい生活を送り、十分な睡眠とバランスの良い食事を心がけましょう
- 風邪やインフルエンザの流行時期は手洗いなどの予防策を取りましょう
- インフルエンザなどのワクチン接種については、主治医に相談しましょう

日医工株式会社
NICHI-IKO
2020年10月作成　N202000224